

令和3年度 小麦しみず有機施用試験 結果

圃場 北農研 芽室研究拠点

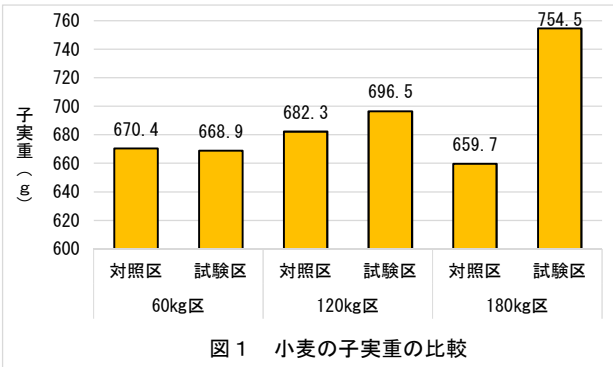
品種 きたほなみ

試験区分 土改剤 苦土タンカル 100kg/10a ×全区画

慣行区 BB800Cu 50 kg/10a + 硫安 70 kg/10a × 9 反復

試験区 BB800Cu 50 kg/10a + 硫安 70 kg/10a + しみず有機 60、120、180 kg/10a × 各 3 反復

【作況状況・調査結果】



◇ 60 kg、180 kg区の一部で雪腐れ病の影響を受けたが、起生期以降の生育は順調だったため収穫時の茎数は町内の平年並みまで回復した。

◇ 試験区において、慣行区と比較して成熟が遅れることはなく、倒伏もなかった。

◇ 収穫時の稈長、穂長は各区の差は見られなかった。

◇ 180 kg区で最も子実重（収量）が多く、慣行区と比べて約100g/m²収量が多かった。

【今後の予定】

- 次年度は同一圃場でてん菜を作付予定
- 収穫物の成分分析、栽培期間中の土壌微生物群の解析、堆肥を連用する事による効果の解析

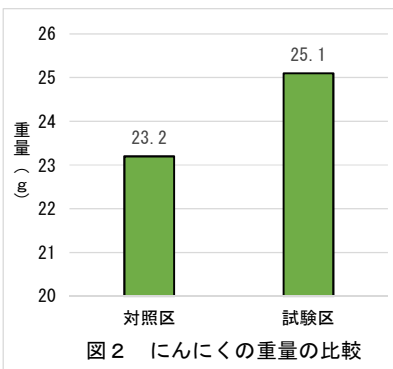
令和3年度 にんにくしみず有機施用試験 結果

試験区分 土改剤 苦土タンカル 200 kg/10a + 苦土重焼リン 400kg/10a ×全区画

慣行区 BBS508UF 200kg/10a × 3 反復

試験区 BBS508UF 200kg/10a + しみず有機 200kg/10a × 3 反復

【調査結果】



◇ 慣行区と試験区で草丈・葉数に大きな差はなかった。

◇ 慣行区に比べて試験区の方が1球あたりの重量が8%大きかった。直径はほとんど差が見られなかった。

◇ 試験区の方が球が大きくなる傾向があった。

【今後の予定】

- 次年度は今年度と同様の試験を行い、さらに炭+麦稈マルチ区としみず有機+炭+麦稈マルチ区を設置し土壌凍結の緩和と土壌微生物の活性について調査を開始する。

～圃場の様子～



↑ にんにく (6.2 撮影) 左：対照区 右：試験区

←小麦 (7.26 撮影) 左：対照区 右：180 kg試験区